

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200210		
法人名	医療法人仁泉会		
事業所名	グループホームおもつべ		
所在地	宮古市田老字重津部34番77		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Ji_gvosvoQd=0390200210-00&amp;Pr_efQd=03&amp;Ver_si_onQd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Ji_gvosvoQd=0390200210-00&amp;Pr_efQd=03&amp;Ver_si_onQd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年2月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、玄関からは鹿やタヌキが見えることのある場所にあります。季節の行事、旬の食材を活かした食事を提供し、懐かしんでいただいています。(調理師2名)暖かい日はウッドデッキで昼食を摂ったり、夏はバーベキュー、秋は秋刀魚を炭で焼き楽しいひと時を過ごしていただいています。バーベキュー、新年会は地域の方も多数参加をしていただき、交流を深める場所になっています。また、地域の方と、入居者が交流できるように定期的に介護予防教室を開催したり、認知症の緩和を目的とし学習療法を行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時からの目標である地域との繋がりを念頭に、介護予防教室・お茶会・フォークダンス・バーベキュー等の四季折々の行事を行い、地域の方々に来訪して頂き交流され、利用者の良き生き甲斐ともなっている。特に、介護予防教室は、地域の方への認知症への関心を高めるために有効である。更に、町の場所を借りての恒例の新年会は、家族・地域の方も参加され、利用者も歌い・踊りに加わり大好評である。ホームでは、年3回の職員との個人面談を行い、より良いケアの個々の目標を立て、確認し合っている。更に、研修・資格取得を全面的にバックアップし、キャリアアップを図っている。母体(ほほえみの里)があることで、防災避難時の際や医療連携システムがしっかり整えられ、利用者・家族への大きな安堵感に繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員心がけ(目くばり、気くばり、心くばり)を常に意識し入居者をはじめ、地域の方、ご家族の方と共に笑顔で歩んでいけるように努めている。	理念「目配り・気配り・心配り」を念頭に、ミーティング時に前日の行動・表情等を管理者中心に観察し、話し合い、当日の確実なケアに結び付けている。また、利用者個々の潜在能力を活かし、様々な行動(手伝い・レク・読書等)を朝から積極的に行っており、活動的なホームで、利用者の生き甲斐の源となっていることが窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事、介護予防教室開催時には、ご家族や、地域の方に参加していただいている。社会との繋がりを感じていただくために、外食や買い物に出かけている。	自治会に加入しており、地域代表・行政連絡員の方々が運営推進会議の委員であることで、開所時から重んじている地域密着性が一段と強く感じられる。ホーム内の行事(介護予防教室・フォークダンス・バーベキュー・お茶会・新年会)等の案内チラシを地域の回覧板で廻して頂き、事業所に来訪され、利用者と一緒に盛んに交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	バーベキュー、新年会には地域の方やご家族に参加していただいたり、介護予防教室にて、内容を運動の他、認知症に関しての勉強会を開き理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、家族へホームの活動状況を報告し、市職員に出席していただき要望や、アドバイスをいただいて、今後の活動に繋げている。また、運営推進会議と避難訓練を抱き合わせご家族に見学していただいている。	防災意識を含む様々なメリットを考慮して、推進会議と抱き合わせで避難訓練を実施している。今後も継続する予定である。なお、会議の度に介護予防に関するミニ研修も行っている。会議は、報告・連絡・相談・フリートークの流れだが、行政や消防からのアドバイスやヒヤリハット等に対する意見交換等で、短時間ながら中身の濃い運営推進会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事がある時は直接市役所へ出向いて相談したり、活動状況を報告。市から要請された介護予防教室の開催を継続している。	行政からの通達は、法人本部を通して連絡されるが、事業所の相談や要請事項等で自ら市役所に出向くことは頻繁にある。市主催のケアマネジャー会議や、北沿岸ブロック会議にも出席し、様々な情報を頂くこともある。市からの要請に応じて、介護予防教室も継続して行い、市との程良い連携を保ちながら安定した運営に活かされている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、ホーム内で研修が行われており、職員は理解し、実践している。「身体拘束ゼロ」を購読するように心がけている。また、家族には契約時にそのリスクを説明し、同意を得ている。	国で定めた「身体拘束ゼロへの手引き」を、職員が常時読むようにしている。法人内とホーム内での研修会も毎年実施し、全職員への共有に努めている。現在、時折帰宅願望の兆しがある利用者があるが、マンツーマンによるドライブや散歩等で気分転換を図り、穏やかなホーム生活に導いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、ホーム内で研修が行われており、職員はそれを理解している。入居者が穏やかに過ごせるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいないが、法人内、ホーム内で研修があり参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学や短期入居等で試していただいたり、分からない点について説明をし、納得していただいてからサービスを利用していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお知らせに家族からの欄を設けたり、面会時に要望を伺い活動に活かすよう努めている。また遠方にお住まいの家族に対しては電話で連絡を取り伺っている。	家族の面会時や、遠方の方には電話での会話で伺いを立てている。毎月のお知らせにも、家族欄を設けている。利用者とは、日常の会話から意向を汲みとる様になっている。運営に関する意見は殆ど出ないが、家族からは「災害時の避難場所や経路について詳しく知りたい」との声があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議での意見交換、年3回の個人面談にて職員の現状把握に努めている。また誰もが発言しやすいように、朝の申し送り時に、改善ミーティングを行い「良かったこと」「悪かったこと」「感謝すること」何でもひとつ発言しノートに記載している。	管理者の意向で、職員全員に年3回の個人面談を実施している。その中で、個々の思いや意見を身近に話し合うようにしている(個人目標・人間関係・研修目標・希望休日など)。また、法人として、誕生日には2連休の公休が取れることで、リフレッシュが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	希望休を受け優先している。誕生日には有給を2日続けて取るように決まっている。また法人は給与水準、労働時間に関して、本人の希望が叶うように努力していると思う。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験、力量に応じた研修参加、資格取得を全面的にバックアップしている。また、他職員もシフトを調整し協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団指導や、沿岸北ブロック会議へ参加し意見交換している。運営推進会議では、他ホームへ参加したり、参加していただき、意見交換している。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申請時、ケアマネ、家族から生活歴や、好きなこと、嫌いなことを聞き取り、ホームでの対応の仕方を説明し、納得していただいてから利用をすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、可能であれば自宅訪問し家族の納得できるように説明し、分からない事があればいつでも対応できるように電話番号を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を開催し、本人にとって一番良い方法をと、職員全員でそれに向け統一している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のエプロンのほつれや、雑巾縫い、魚のさばき方を教えていただいたり、調理の際は味見や洗い物を一緒に行っている。職員は「ありがとう、助かります」の言葉を忘れない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、バーベキュー、敬老会、新年会の際は家族に連絡をし参加していただいている。ご本人と家族が過ごせる時間を大切にしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた病院、デイサービスへの外出等、できる限り支援している。季節ごとのドライブでは、昔を懐かしんでいただき当時の話を聞かせていただいている。	以前利用していたデイサービスに遊びに行ったり、馴染みの病院・床屋に家族と一緒に出かけたり、法人本部から車を借りて、懐かしい四季折々の海・山を全員で眺めにドライブに行ったりして、賑やかに思い出を語り合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通じ、コミュニケーションをとれるよう支援している。また困っている人がいれば、自ら手を差し伸べたり、職員に教えてくれます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退去になり、老健へ入所になっても、病院や施設に出向き、声をかけている。その際、家族の思いを聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの聞き取りや、訴えの無い方はBS法を用いたり、一日の行動と表情を観察しプランに繋げている。今後はアローチャートの取り入れも検討していく。	思いや希望を素直に表に出せない方もいるので、職員は本人本位のケアに重点を置き、家族からの聞き取りは勿論、本人の行動と表情を観察し、更に全員でBS法を用いて検討し、日々のきめ細かいケアに努力されている。なお、より確実な本人本位のケアを目指すことを念頭に、新しい手法(アローチャート)を用いて検討することも考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ、家族からの聞き取りをし、入居後も生活のリズムを変えないように安心して暮らせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、カンファレンスにて評価を行い、できる事、できない事、好きな事、嫌がる事を話し合い、職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネ、家族、サービス提供者から聞き取りした情報から問題抽出し、入居後は本人の発言や行動から気持ちを察し、職員同士で話し合い実践に繋げている。普段していた事は、できるように努めている。	確実な本人本位のケアを目指し、共通の5つの視点①自分らしさ②快さ③力の発揮④健やかさ⑤継続を検討し、目標を立て、本人の要望や家族からの聞き取りをし、更に職員全員で話し合い、3か月ごとの見直しを行っている。本人の強い希望により、老健施設から受け入れた高齢の方は、その方独自の緻密なプランで対応している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りや職員間の連絡ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や、様子から馴染みの場所へ出かけたり、家族や、馴染みの方々へお願いして遊びに来ていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のフォークダンスサークルの方の来設で、入居者も一緒に踊る事ができ喜ばれている。祭りに出かけると、地域の方々が声をかけていただくので、昔を懐かしんで会話ができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状によっては県立病院に紹介していただくが、かかりつけの病院に行くと、笑顔になられるので、できるだけ継続し支援している。	現在、かかりつけ医は地元の田老診療所に7名（職員が対応）、あとの2名は以前からのかかりつけ医（家族が対応）を利用している。定期的に訪問看護を利用する方もいる。複数の疾病を持つ方が多く、病状報告・説明は口頭で行っている。付き添い時のホーム職員の配置リスクを考え、相互の連絡を密にとり、支障のないように工夫し、努力されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連携しており、週1回来設の訪問看護師へ受診内容、日常の様子を報告。急変時には状況を連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合には主治医から県立病院を紹介され治療を受けるようになる。その際は医療連携室職員と連絡を取り合い、病状を把握し、ホームに戻れるよう、または長期入院になる場合は退院後の受け入れ先を確保し、安心して治療ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を入居時に説明し同意をいただいている。個々の病状や主治医の判断によるが、本人と家族の気持ちに寄り添い、その都度話し合い、相談しながら本人にとって一番良い方法を考え支援していく。	指針は、入居時に説明し同意を頂いている。どうしてもという希望があれば、事業所で看取りを行うこともある。過去には、診療所の協力を得て看取りの経験がある。系列には老人保健施設があることで、本人・家族に寄り添い、主治医の判断を仰ぎ、そちらへの住み替えも選択肢にあることも伝えている。重度化に当たったの勉強会は、法人全体と事業所内で交互に実施している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置している。ホーム内で「緊急時の対応について」勉強会を行っている。夜間の緊急時の対応マニュアルを作成し、職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。地域の方に協力していただき訓練の際、駆けつけてもらい、どれくらいでホームに着くか、時間を計った。また避難誘導を協力していただいた。避難準備情報発令が出た場合は、早い時間に母体であるほほえみの里へ避難する事になっている。	昨年、行政からの避難準備情報発令に伴い、法人母体「ほほえみの里」に避難し、全体的な安心感に繋がった。春・秋の定期的避難訓練も実施している。訓練には、地域の2名の応援を得て、利用者を見守って頂いた。前回の推進委員会議時に避難訓練を兼ねて実施したが、今後も継続予定である。夜間緊急時に於けるマニュアルを作成し、全員が携帯している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助、移動介助の際は本人のプライドを傷つけないようにしている。特に便失禁の時は入居者は職員の表情に敏感なので穏やかに、本人の気持ちになり細心の注意を心がけ声掛けしている。	日常的に、ご本人の身になった援助を心掛けるよう取り組んでいる。目配り・気配り・心配りをしながらも、家族同様に良くないときは注意したり、謝ったり、ほめたり、共感したりして、職員と利用者の隔たりを感じさせない自然なケアであることが、自由で伸び伸びしているホームの様子から窺い知れる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる人ははっきりと伝えてくるが、できない方に対しては思いを引き出せるように努めている。マンツーマンでドライブに出かけながら、聞くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰宅願望が強い方に対しては、業務の手を止め、寄り添って納得できる場所まで一緒に歩く。車で市内までかけ、気分転換をしてもらうこともある。ほとんどの方が歌や踊りが好きのため職員が踊ったり、一緒に歌いながら、一人ひとりの表情から気持ちをくみ取るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域的美容院の方に来設していただき、カットをしてもらいます。また、外食の際は自分でお気に入りの服を選ぶことができます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、季節を感じ会話を楽しんでいます。饅頭作りや、野菜の皮むき、食器の洗浄、拭き方等、職員と行います。暮れには、生鮭を1本さばくのに、職員がおろおろしているのを見て、手際良くさばいていただき、皆で拍手しました。	季節によっては、プランターで栽培した野菜を使ったり、週1回ペースで旬の食材を利用者と買ってきたりして、皮むき・ごますり・新巻きづくり・味見など、それぞれ得意なことを手伝っている。台所は、カウンターごとに利用者と会話ができる造りとなっており、包丁の音・料理の匂いがホールいっぱいになり、家庭的な雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は、毎日記録し不足している場合は、好みの味で、こまめに取れるようにしている。体調不良などで食事の量が減り、体重が減少した際は、高カロリーゼリーなどで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアをしている。舌苔が厚い方には重曹にミントを少し混ぜ、ブラッシングしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、失敗ないように個別に声掛けしている。また夜間は、本人の尿量に合ったパットを使用し、できるだけトイレでの排泄を促している。日中は全員リハビリパンツでトイレを使用している。	あくまでもトイレでの排泄を基本として、チェック表を基にさりげなく誘導している。その際には、背中の方から優しく手をかけるなど工夫して誘導している。入居後に改善された方もおり、現在は2名が布パンツを使用しトイレで排泄可能になっている。便失禁された際には、本人の気持ちになって、細心の注意を心がけるように共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になるとどのような状態になるか、職員間で周知し排泄チェック表により排便管理を行っている。食物繊維を多く含む食材を使ったり、オリーブオイルなども使い便秘予防している。何日も排便確認が取れない場合は訪問看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日入れるように準備している。テレビに夢中になっていたり、居眠りしている方に対しては時間をおき声掛けしている。	毎日入浴できるように準備しているが、健康と清潔保持のため、週3回の入浴を勧めている。入浴拒否の方には、清拭や時間差入浴等で支援している。マンツーマンでの入浴時には、会話が弾み、意思疎通の場ともなっている。着替えの自立は4名で、ほかの方は必要に応じて介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は居室で休む人や気に入った場所で休む人それぞれです。夜間は室温、湿度に注意して気持ちよく休めるように支援しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各担当者は、処方箋の内容を1度手書きをすることで用法、副作用、用量の把握をしています。また、2カ月に1回薬剤師による「薬剤勉強会」に参加している。参加できなかった職員に対しては資料を渡し伝講している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物干し、たたみ、食事作りを一緒に行い「家」として生活していただいている。ボランティアの方に1週間に1回来ていただき、庭仕事を一緒に行い楽しんでいただいている。買い物に出かけた際は、「御苦労さまです」と声をかけ、車内でお菓子を食べることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祭り、さくらんぼ狩り、海、外食、紅葉狩り、季節に応じ出かけている。本人の希望を聞き取り家族に対して、一緒に外出の機会を作ってほしいと願っていることもある。新年会は国民休暇村でお膳を提供しているので、わくわくしながら服を選んでいる。	訪問時、職員と利用者で買い物に出かけている。冬期はホームの周りに雪が残るが、暖かい時期には個別でドライブに出かける等、積極的に外出に取り組んでいる。また、利用者は新年会のビデオを見て、来年の新年会を今から楽しみにしている様子であった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内の持ち込みは禁止しているが、家族の了解のもと所持している方には、買い物に行った際、本人ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を取りついたり、不穏状態の時は電話で家族の声を聞いてもらい安心していただけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは仕切りがなく自由に動けるようになっている。居間は日当たりも良く、3つのソファで休まれる方や、畳で横になられる方やそれぞれ好きな場所で過ごされている。季節ごとに、ホーム内をディスプレイし、季節を感じていただいている。」	広い居間の天井は吹き抜けで、雛段飾りや多くの吊るし雛でホールは華やかな雰囲気となっている。丸い食卓テーブルが3台並び、共有スペースのソファでテレビ鑑賞する方、丸テーブルで職員とゲームを楽しまれている方、カウンター内の厨房で料理の補助をされている方等、思い思いにくつろいでいる。表の窓の外には広いウッドデッキがあり、バーベキューや花火等、夏場の催しには最適なスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶を飲みながら、カウンター越しに会話をしたり、気の合った同士がおしゃべりする丸テーブル。ゆったり座れるソファや、横になれる畳間などがある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	旦那さんや、奥さんの位牌を置き、毎日お水とお茶を取り替えている。本が好きな方は、1カ月に1回来る移動図書でたくさん本を借り、居室で読まれている。	備え付けのベッド・整理棚・加湿器・洗面台がある。仏壇・位牌・5円玉で作成した亀の置物など、思い思いに持ち込み、位牌に毎朝ごはん・お茶を供えてる方もいる。移動図書館から本をたくさん借りて、自分の居室で読んでいる方もいる。雑巾縫いを得意としている方が作った雑巾は、事業所で活用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなる方には、居室に目印を付け、トイレが分からなくなる方に対しては、柱に矢印をつけ、困惑しないように支援している。		